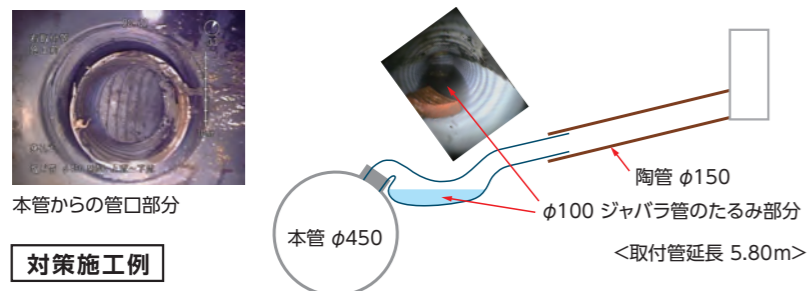


# 取付管ライニング

## 10 取付管ライニング … 開削修繕が不可能な特殊施工実例

**状況** 取付管調査において、φ150陶管の途中よりφ100のジャバラ管が接続されており、本管管口部分にて変形によるたるみが確認された。現場は開削が不可能で、非開削工法よりの復旧が熱望された。施工できないという可能性もあり、最悪の場合は開削となることを了承してもらい施工を行なった。



### 対策施工例

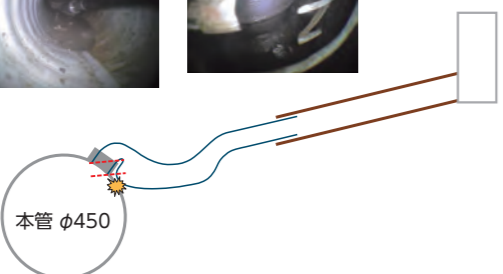
#### <<切削工>>

特殊ビットをとりつけた切削機等を使用し、赤点線(---)のように切削を行おうとしたが、切削が難しいと現場で判断。本来の取付管口の横に穴(⚡)を開けて管路軌道を確保した。

取付管側からの切削



本管側からの切削



拡張切削後の状況

#### <<取付管ライニング/部分補修工>>

φ150管内にφ100のアウターフィルムを反転挿入後、φ100の材料を反転、硬化させた。また、本管部分については一体型施工が難しく、閉塞目的も兼ねた本管補修後に穴を開けて対応した。

### 取付管内

(ジャバラとのジョイント部分)



### 本管部分

#### 取付管ライニング



#### 部分補修

部分補修 施工前

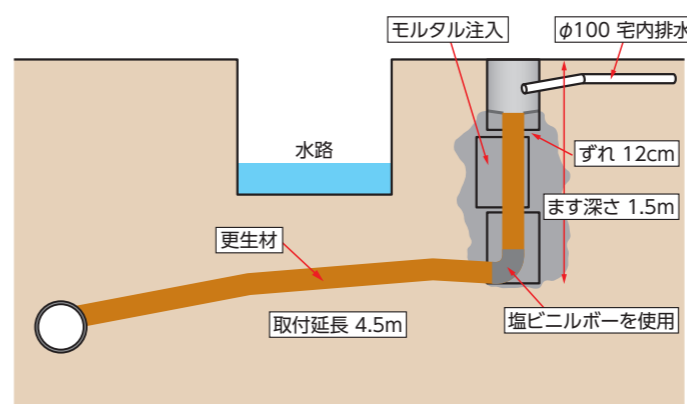


## 11 取付管ライニング … 更生材を利用したの底部有効ますの形成

**状況** 深さ150cmある汚水ます(φ350)の側壁が大きくズレており、地盤の陥没、汚水の流出が認められた。横には水路があり、開削での復元は難しい状況であった。

### 対策施工例

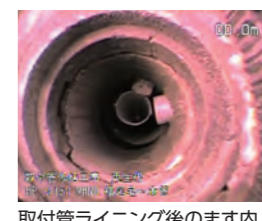
宅内からますへの流入は、上部からのφ100のみであったため、取付管ライニングの材料で立管を作成し、更生管とますとの隙間に流動性の良いグラウト材を注入。硬化後に底部有効ますとして、モルタルで底部を形成した。



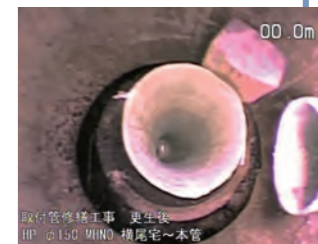
ます上部からの写真



12cmのズレ、隙間



取付管ライニング後のます内



更生後、モルタル注入前の状況

## 12 取付管ライニング … 狭い道路における特殊な取付管更生

**状況** 道路幅員2.50mの下に供用されているφ1500(更生管径1350)汚水管につながっているφ150取付管の一部に陶管が残されていた状態であった。ますについては、φ150塩ビ管の点検ますが、特殊な形状で接続されており、道幅も狭く、汚水管の土被りが2.8mぐらいあるため、開削での復元は困難であった。



**対処** φ100の供用管(流入部)より更生管までの部分を取付管ライニングで施工を行なった。

